

4-5					
主題		胃ろう栄養から経口摂取への支援専門職種として経口移行加算を取得するために			
副題		1 日 1 食 食べる ことへの支援について			
キーワード 1	経口移行	キーワード 2	口腔ケア	研究(実践)期間	9 か月
法人名・事業所名		社福) ウエルガーデン ウエルガーデン伊興園			
発表者(職種)		野邊理恵(管理栄養士)、市川美緒(介護職員)			
共同研究(実践)者		寺本浩平(歯科医師)、佐藤和美(歯科衛生士)			
電 話	03-5838-1500	F A X	03-5838-1501		
事業所紹介	ウエルガーデン伊興園は足立区伊興に平成 13 年開設した従来型特別養護老人ホームで 130 名のご利用者が生活されています。その他短期入所生活介護、通所介護(一般型)、訪問介護、居宅介護支援事業所、地域包括支援センターを併設し、施設全体で自立支援に取り組んでいます。				
<p>《1. 研究(実践)前の状況と課題》</p> <p>当施設では平成 25 年度より歯科医師による内視鏡を使用した摂食嚥下評価を実施し、いつまでも美味しく安全に食事を楽しんでいただく支援をしていた。胃ろう栄養管理をされている方に対しても本人・ご家族の希望が聞かれる場合は施設医師の指示の下、歯科医師に検査を依頼し経口摂取への支援をしていた。本研究の対象者は平成 29 年 6 月、肺炎での入院を機に病院医師より「今後、経口摂取せずに胃ろうのみで栄養管理をしましょう」と指示を受け、退院された。介護・看護・ケアマネジャー・栄養士はこの診断を受け、経口摂取への支援を諦めていた。しかし退院後、対象者が「食べる仕草」を頻回にされるようになり、ご家族へ報告。ご家族も少しでも口から食べられればと経口摂取を望まれた。退院後の身体状況、ご家族の想いを施設医師へ報告したところ、歯科医師による内視鏡検査を受けることになった。</p> <p>課題として①現在の口腔内環境で経口摂取が可能であるのか②口腔ケアの見直しと職員の統一されたケアで発熱なく経口摂取が継続できるのかがあった。</p> <p>また、以前は「胃ろうを造ると口からはもう食べられない」という考え方があったが最近では新聞やテレビからの情報もあり、ご家族から「少しでも食べさせてあげたい」と希望が聞かれるようになっていた。今回支援をしていく過程の中で、今後胃ろうの方が口から食べたい、食べさせてあげたいというニーズが高くなることを予測し、経口移行加算取得に向けて取り組むこととした。</p> <p>《2. 研究(実践)の目的ならびに仮説》</p> <p>目的：長期目標(半年間)として 1 日 1 食(全量提供)経口摂取ができるようになる。</p> <p>また経口移行加算を取得する。</p> <p>仮説：歯科医師・歯科衛生士が介入し、根拠に基づいた経口摂取訓練をすることにより口腔機能の向上を期待した。その事で栄養量・水分量が増え覚醒レベルの向上、ADL の向上が期待される。</p>					

《3. 具体的な取り組みの内容》

- ① 施設医師による身体状況及び指示の確認
- ② 月2回歯科医師が行う内視鏡での定期的な摂食嚥下評価の実施
- ③ 歯科衛生士による口腔ケア指導
- ④ ゼリー（1日2, 3口）からの直接訓練の開始
- ⑤ パースト粥やソフト食へのステップアップ
- ⑥ 胃ろう栄養量の調整
- ⑦ 摂食状況、水分摂取量、体重、BMI推移のモニタリング
- ⑧ FIM（機能的自立度評価表）を活用したADL・IADLの変化
- ⑨ 月1回経口会議の開催
- ⑩ 経口移行加算取得に向けた他施設への見学や書類作成のため区・都への確認

《4. 取り組みの結果》

【経口摂取への支援】

平成29年8月の支援開始から4か月後、目標の「1日1食の食事提供」を達成。

平均90%（約400kcal）の摂取率であった。訓練開始時が冬であったことから感染症への罹患も心配されたが、大きく体調を崩す事なく経口摂取を継続。発熱なく経過されている。さらに以前はご家族が面会時、対象者が好きな鈴カステラを持参され召し上がっていた経緯があり、目標に追加。支援開始5か月目で達成し、好きな物をご家族と一緒に食べる事を楽しんでいる。

経口摂取への支援を開始した7か月で体重は38.6kgから42.8kg、BMIは15.9から17.0、まで改善された。FIMにおいても退院後18.0であった数値は8ヶ月後、31.0まで上昇した。歯科医師より「対象者は食べる事で口腔機能向上が見られている」とあり。日中の覚醒レベルも向上し、発語が多く聞かれ声かけにも笑顔がみられるようになった。

【経口移行加算取得】

加算取得に向け他施設への見学、要綱の確認等行い、平成30年3月より医師の指示書・ご家族合意の下、取得開始している。

《5. 考察、まとめ》

今回の経口移行がスムーズに行えた結果としてなにより本人が「食いたい」という食事に対する意欲が見られたという事、またご家族も一口でも食べさせてあげたいという気持ちが一致した事、職員も対象者が食べる仕草をみて「食べたいのかも」から「食べさせてあげたい」という気持ちが高くなった事、そして何より歯科医師・歯科衛生士の介入により根拠に基づいた支援が出来た事が大きいと思われる。課題として経口移行加算取得を今後、継続していく事で職員も胃ろう者に対する経口摂取支援への意識を専門職として高めていく事が必要である。

《6. 倫理的配慮に関する事項》

なお、本研究(実践)発表を行うにあたり、ご本人（ご家族）に口頭にて確認をし、本発表以外では使用しないこと、それにより不利益を被ることはないことを説明し、回答をもって同意を得たこととした。

《7. 参考文献》

「誤嚥性肺炎で困らない本」著者:寺本浩平、寺本民生 出版社:河出書房新社

《8. 提案と発信》

胃ろう管理の方は食べさせてあげたくても胃ろう物の逆流や痰がらみ・発熱等、経口摂取を開始するまで課題が多く存在する。その課題をクリアしていく為に何が出来るのかを考え、ゴールを全体で共有・理解しチームで支援していくという気持ちが目標達成への近道であると考えます。